



侯の下さこ色上目錄

寄天戀	寄日	寄月	寄星	寄風
寄雲	寄烟	寄霞	寄夕	寄露
寄雨	寄霜	寄霞	寄雪	寄霜
寄曉	寄朝	寄畫	寄夕	寄夜
寄山	寄嶺	寄谷	寄閑	寄夜
寄杜	寄野	寄原	寄閑	寄夜
寄橋	寄水	寄泉	寄閑	寄夜
寄沼	寄江	寄瀧	寄閑	寄夜
寄瀨	寄湊	寄海	寄湖	寄池
寄濱	寄磯	寄汀	寄湖	寄池
寄渚	寄泊	寄渡	寄岸	寄池
寄沙	寄巖	寄田	寄都	寄中



録上

寄室	寄市	寄菴	寄門	寄戶
寄垣	寄庭	寄井	寄屋	寄庇
寄柱	寄簷	寄窓	寄床	寄壇
寄司	寄隣	寄簾		

淡のふさこ

戀部

初忘 忍 不言 初言 歌 聞 見 新
 為 名 立 立 無 名 池 人 物 久 經 年
 不 逢 契 誓 疑 嘆 待 逢 稀
 別 後 朝 塔 切 思 片 思 默 悔 忘
 絶 愛 恨 旧 戀 今 夢 老 切 書
 遠 近 旅 戀 面 教

已上歌讀方詞本初字和寄式子出づつて略之寄系は此
 子三三

元寄忘其物子知て忘つれぬ其少てもより暮らにね
 淡しとてふせ忘の心もあまひ入てふせ物其物とこふ
 淡入ぬ中しこれと目し其下を物ふとてはれおる
 の恋減りしむし又其下を物ふえんある初とりのけ

一其執法子ある所

寄天意

後訪松外これのうらの言をたすむに地我にあらうも地出むは
^{後林} 我をたすむ心の初も我をうも地をたすむをよかうりて地を
^{七右} 元をたすめて我をたすむに地をたすむにあらうも地を
の言をたすめて物とて物とての言もふもつづの言をたすむことも
ふじし又雲のふくくひもたすむ物なれど言をたすめて地をたすむ
あられし雲のふくくひもたすむ天の言をたすむに
ふくくひもたすむに地をたすむにあらうも地を
大元をたすむに地をたすむにあらうも地を
ほ氏たすむに地をたすむにあらうも地を
ふくくひの言をたすむに地をたすむにあらうも地を
くれの言をたすむに地をたすむにあらうも地を

・久りの言・天の言
一 天象といふ言の月日雲風雨霞霧の言も漢く

寄日意

身言 天意の言をたすむに地をたすむにあらうも地を
^{七右} 元をたすめて我をたすむに地をたすむにあらうも地を
の言をたすめて物とて物とての言もふもつづの言をたすむことも
ふじし又雲のふくくひもたすむ物なれど言をたすめて地をたすむ
あられし雲のふくくひもたすむ天の言をたすむに
ふくくひもたすむに地をたすむにあらうも地を
大元をたすむに地をたすむにあらうも地を
ほ氏たすむに地をたすむにあらうも地を
ふくくひの言をたすむに地をたすむにあらうも地を
くれの言をたすむに地をたすむにあらうも地を

日・入日・出日・日・天の言・月日・雲の言・風の言・霞の言・霧の言
日・天の言・月日・雲の言・風の言・霞の言・霧の言

とのおこし一輪あくる月夜よ人の恋一と増さるも・月
おむくの付そひて恋一と月おふのゆくりそとも後
とくして月の陰氣かたれ一と一とわらわら物さびく候は
ら人の恋一と月おこし一と増さるも
[縁河の・洞やどろ・社まじり・洞よくのら・あざりあふ
・件さばふ・人の恋一と・有明のつれなき・おまじり・
ひそふ・ひとり物さびく・乾・ひら]

寄早良

新緑 新緑 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
西尹 西尹 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
寄早良 寄早良 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
わじり一とひ・七夕の幸ふ恋さるも
とらし一とひの恋さるも

ひとり恋さるも
ひのやせんとも
くれの早良の恋
縁初七夕の恋

寄早良

新緑 新緑 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
日 日 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
心 心 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
と と 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
人 人 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも
う う 恋さるふあふ恋乃早良の恋一と増さるも

新緑の恋

日

いづかひの心もあらば。・おらふ事の本もあらば。・
善悪の別も水もかきまじりて。・つがひの心もあらば。
大いなる事もあらば。・これらもあらば。・
乃日くしむ事もあらば。・五月五日もあらば。・
丹波もあらば。・物もあらば。・日比我れぬ事もあらば。・又二月
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
さうり一時もあらば。・さうり一時もあらば。・さうり一時もあらば。
ひまもあらば。・ひまもあらば。・ひまもあらば。・ひまもあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
人の心もあらば。・人の心もあらば。・人の心もあらば。・人の心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。

おのれの心もあらば。・又おのれの心もあらば。・
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。

寄書

信社におねの心もあらば。・おのれの心もあらば。・
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。
おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。・おのれの心もあらば。

信社の心もあらば。

いふれはふこのふ人乃これいふも。夏の舟よあめと
し一編ふあしとら。其かあひびくの定。ある山いふ
の氣氣たふふせてもふふのいふ。

奇の釣魚

耕^耕田^田向^向家^家乃^乃お^お別^別置^置子^子 釣^釣乃^乃り^りま^まて^ては^はさ^さめ^め神^神い^いせ^せん^んや
起^起引^引れ^れかり^{かり}い^いら^らぶ^ぶと^と釣^釣ね^ねと^とあ^あめ^めと^とう^う一^一差^差は^は名^名あ^あめ^め
しこの糸も起るさ。ころんても夕ハ又あいうんてこも
釣の乃も根こかすとも。其外釣魚のいふこもこれ
ころんての後乃釣。釣の糸あつる所。釣魚の池よりお
るふ。釣るこ何をいふ。

奇の登魚

釣^釣乃^乃く^くは^はこ^こも^も教^教る^るは^は波^波の^の音^音は^は塔^塔の^のい^いふ^ふも^も社^社わ^わく^くせ^せと^とや

凡^凡曉^曉釣^釣乃^乃根^根た^たと^とい^い魚^魚ま^まふ^ふり^りあり^{あり}終^終の^の釣^釣乃^乃とも^{とも}あり^{あり}て
ころんて一^一登^登の^の魚^魚乃^乃り^りは^はか^かく^くむ^むり^り。あ^あら^らこ^こた^たれ^れ中^中
て小^小釣^釣乃^乃登^登い^いら^らぶ^ぶ中^中。あ^あら^らい^いら^らは^はも^も社^社は^はた^たま^まら^らる^る
ここの事^事中^中の^のい^いふ^ふ其^其外^外。う^うら^らぬ^ぬ日^日釣^釣。あ^あら^らこ^こた^たれ^れ乃^乃
げ^げこ^こぶ^ぶれ^れ 日中よ小釣のいふ乃。い^いら^らね^ねを^をど^どと^と決^決む^むり^り

奇の魚 并奇言魚乃々魚子いひり

凡^凡曉^曉釣^釣乃^乃根^根た^たと^とい^い魚^魚ま^まふ^ふり^りあり^{あり}終^終の^の釣^釣乃^乃とも^{とも}あり^{あり}て
ころんて一^一登^登の^の魚^魚乃^乃り^りは^はか^かく^くむ^むり^り。あ^あら^らこ^こた^たれ^れ中^中
て小^小釣^釣乃^乃登^登い^いら^らぶ^ぶ中^中。あ^あら^らい^いら^らは^はも^も社^社は^はた^たま^まら^らる^る
ここの事^事中^中の^のい^いふ^ふ其^其外^外。う^うら^らぬ^ぬ日^日釣^釣。あ^あら^らこ^こた^たれ^れ乃^乃
げ^げこ^こぶ^ぶれ^れ 日中よ小釣のいふ乃。い^いら^らね^ねを^をど^どと^と決^決む^むり^り

魚の奇言

こ及ばぬ魚・しん魚のながくうらふ山かたはらこらに秋と本
・あさぶらむいふらふれ・又名はの山よせせても多あり
こころバ・一あ・の山およせてはこころあひまんと書きつらぬ
あひまをぬい入るぬいし 相あなとむしむび・もよむく
一あさすれ山人の心たあふふよせ又ありとむしむび
てよむし一思ふ山おのよせの心とあり一ころせは
ハ新魚とあり又名はひそくとせせて後一ころうらふ
ハ秋のころふよせ又名は赤赤のころんをと流り
秋ん一ころ海山と一ころふ回一ころうらふ海のと
はるまひと一ころあふらぬる魚と流り又扱てるこころ
一の扱とあり一ころこの山とむしむ魚とあり一よ
ふにこころ一ころあふらぬる魚とあり一ころうらふ
しころあふらぬる魚とあり一ころあふらぬる魚とあり
あふらぬる魚とあり 又人あふらぬる

あふらぬる魚とあり
あふらぬる魚とあり
あふらぬる魚とあり

寄衣魚

信産いはよりあひくくのみ魚乃のころあはもあはん
寄衣魚ハ大針山よふあれしと山の歌よては秋谷とありても
知れ一衣の歌よては山とありてあかたは秋とあり
てよむし一ころあはぬる魚とあり一ころあはぬる魚とあり
せしてあり一

寄谷魚

秋谷魚ハ大針山よふあれしと山の歌よては秋谷とありても
知れ一衣の歌よては山とありてあかたは秋とあり
てよむし一ころあはぬる魚とあり一ころあはぬる魚とあり
せしてあり一

秋の谷魚

秋の谷魚

松本・松本・松本

寄松本

白割りしつゝおちてくちら花の影の松本乃こゝにねいも
松本乃ちの影のつゝのくちら。あなを松本のこりねありひ
くちらに松本のつゝ。又人のこゝ松本乃こゝしてひげどい
つゝのつゝ。松本乃こゝ。こりね。くちら。つゝ。

寄松本

新のつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。

つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。

寄杜松

つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。
つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。つゝのつゝ。

松本乃ちの影のつゝのくちら

つゝのつゝ

• the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same
 • the same with the same • the same with the same

寄信

送致 くれぬまけるおれわれは...
 くれぬの夜の小ひら
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

寄信

...
 ...
 ...
 ...
 ...

1. 大井川の
 2. 大井川の
 3. 大井川の
 4. 大井川の
 5. 大井川の
 6. 大井川の
 7. 大井川の
 8. 大井川の
 9. 大井川の
 10. 大井川の
 11. 大井川の
 12. 大井川の
 13. 大井川の
 14. 大井川の
 15. 大井川の
 16. 大井川の
 17. 大井川の
 18. 大井川の
 19. 大井川の
 20. 大井川の

寄謝魚

1. 大井川の
 2. 大井川の
 3. 大井川の
 4. 大井川の
 5. 大井川の
 6. 大井川の
 7. 大井川の
 8. 大井川の
 9. 大井川の
 10. 大井川の
 11. 大井川の
 12. 大井川の
 13. 大井川の
 14. 大井川の
 15. 大井川の
 16. 大井川の
 17. 大井川の
 18. 大井川の
 19. 大井川の
 20. 大井川の

新後松 下しきよまをらるる園の草之れ淡しといふも知人をまか

新後松 下しきよまをらるる園の草之れ淡しといふも知人をまか

新後松 下しきよまをらるる園の草之れ淡しといふも知人をまか

いづろの淵のつらさの底のふとも・なまむくのやらむらむら
いづろの淵のつらさの底のふとも・なまむくのやらむらむら
いづろの淵のつらさの底のふとも・なまむくのやらむらむら

寄湖魚

佐大社 瀬川せくらし程にせきいづり社より舟ハ瀬川とせき
人の心乃はきり波ありは波さく 波の波はさくはりのなり
うき波さく白波・あふぬれいづり・ながれめせ・
せきさく・あふせき波・人の心のせきうらりり 人の心のせき

寄海魚

お茶 どのうきもあつらふむらむらと荒は床と根もせき
お茶 どのうきもあつらふむらむらと荒は床と根もせき
お茶 どのうきもあつらふむらむらと荒は床と根もせき

は谷登のところふ求じや・急波さくうらむら・わび
の仲とつらさてふふ・わびの底よりぬきさく・
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき

寄湖魚

寄湖魚 歌ふはこれと波あま考を茶・こころむらむら
みづのいづり波あり水波はかなしこれの湖さくあつらふむら
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき
あつらふむらむらと荒は床と根もせき

美のつらさ

（二）

いづれともうふきかひて泳ぐし昔中おも一志分の浦は
うもと色と志のうは一く傍にひとし松子とせうん
志よひりつれなく物らふう一なも落り一とこの浦
ハ我ひとり松の床子とせて彼くさうり一落り なまこくハ彼と
なまこくとどうい
りま一この浦はあふとからこのうなまこくつげり
又いれもふらせてもまふあり一うらちの溪はこのふ
ららちの溪たつづらり一このうくうなまこく
のうなまこくさうあり

奇浦糸

千載侍りねて小松もよけあ乃浦ゆねぬ彼のまきとせとる
落者 いれとせとる社やぬ道なういれらぬこるは浦の沖つは
元う落と社のなまこくさう落り又うはとらぬいんま

又我とさうといひのいん人さうさうさうさうさうさう
つちくさう あはれはなまこく浦とせうり又つれも浦とつてい
ぬし其外さうのうせあてん初とりとせ うせあてのい
ま一
名はハ一あぞの浦はふき落りおせくさうのあぞの浦
とも落りうらせ見さうあ人のり一の矢たさうさう
一この浦は色まどつこの浦一也あううハ色おせく
或は我々のとまのあう一とああうハ色おせく落り
志貝さうさう松たさう落り一さあの浦ハ地家
がさうあさうさうさう一とあのうハ色まよせ落り
くらあり小せてまふあり一とこの浦ハ人のまれさ
と小うさうさう一せてのうハ物さ神子とせたるは
小う落りても落り一なまこくさうさうのいんま
らしてあはれなまこくさうさうさうさうさうさう

と身づくろいもふよむ草のうらみしうをせて人か...
いふも草のうらみもあなほひくもくちあ...
さうりある中とらうしじんよとらうり一...
いふも草のうらみもあなほひくもくちあ...
人のん乃つれをうらみもあなほひくもくちあ...
こころいふも草のうらみもあなほひくもくちあ...
うらみも草のうらみもあなほひくもくちあ...

寄演文

福祿いふも草のうらみもあなほひくもくちあ...
なまはしんよとらうしじんよとらうり一...
一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
世と我意のいふも草のうらみもあなほひくもくちあ...

うらみも草のうらみもあなほひくもくちあ...
とらうしじんよとらうり一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
とらうしじんよとらうり一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
とらうしじんよとらうり一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...

寄演文

新築めく候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
人のん乃つれをうらみもあなほひくもくちあ...
小志ちんよとらうしじんよとらうり一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
我社のうらみもあなほひくもくちあ...
なまはしんよとらうしじんよとらうり一たぐさの候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...
世と我意のいふも草のうらみもあなほひくもくちあ...

新築めく候はかたじけなくもあなほひくもくちあ...

世と我意のいふも草のうらみもあなほひくもくちあ...

うらまの武士の神子とせりり一かひのりく海を渡る又
 侍人も用ひたり一これ侍人の心乃あはれいふれい
 んふふあり一そののり侍の心乃あはれいふれい
 一それのり侍の心乃あはれいふれい
 一それのり侍の心乃あはれいふれい

寄信色

林 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 侍の心乃あはれいふれい
 我神の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい

一これのり侍の心乃あはれいふれい

寄泊色

侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい

寄岸色

侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい
 一これのり侍の心乃あはれいふれい

八幡の寺にありて人の名は... 住持の...
きつかりてありて... 住持の...
はの屋をいふも... 住持の...
一志のぶの屋をいふも... 住持の...

寄市色

後録

いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...
いづつみかぢがり... 寄市色...

寄養色

いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...
いづつみかぢがり... 寄養色...

寄門色

いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...
いづつみかぢがり... 寄門色...

寄人色

いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...
いづつみかぢがり... 寄人色...

或はたしよをて侍とてしよまゝあるはとてやう・おつた格のとて
ぬるよーとつた格やつてつて格のたよまやまゝつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
別色子湯子あつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
又あつてぬるあつた格やのたつたつてつてつてつてつてつてつて
其糸松の戸板のたつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
おんはつたあつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

寄坂色

後右 おつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
自 おつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
坂 おつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

寄庭色

味 おつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

寄井色

耕 おつたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

後の寄庭色

かこてんてん

寄藤

藤の中垣やうぬぢかきしめてお付し或は中垣のつゝまじりてなうぬぢかきしめてお付し或は中垣のつゝまじりてなうぬぢかきしめてお付し或は中垣のつゝまじりてなうぬぢかきしめてお付し

寄藤

佐吉様おつれのことらうとてなうぬぢかきしめてお付し或は中垣のつゝまじりてなうぬぢかきしめてお付し或は中垣のつゝまじりてなうぬぢかきしめてお付し

漢乃乃とと魚下目録

- | | | | | |
|-----|----------------------|-----|------|-----|
| 寄草糸 | 寄初草 | 寄忍草 | 寄忘草 | 寄思草 |
| 寄月草 | 寄下草 | 寄葵 | 寄葛蒲 | 寄瞿麦 |
| 寄萩 | 寄萩 | 寄薄 | 寄女郎心 | 寄寒草 |
| 寄菊 | 寄薔 | 寄菅 | 寄芦 | 寄葛 |
| 寄萱 | 寄浅茅 | 寄蓬 | 寄芝 | 寄苔 |
| 寄蕨 | 寄藻 | 寄沼繩 | 寄海松 | 寄躑躅 |
| 寄秋冬 | 寄竹 <small>寄條</small> | 寄木 | 寄花 | 寄梅 |
| 寄藤花 | 寄外花 | 寄紅葉 | 寄落葉 | 寄松 |
| 寄椿 | 寄林 | 寄板 | 寄檜 | 寄榎 |
| 寄椎 | 寄桂 | 寄橘 | 寄柏 | 寄桐 |
| 寄柞 | 寄楹 | 寄楸 | 寄常盤 | 寄杉 |
| 寄宿木 | 寄塩木 | 寄埋木 | 寄朽木 | 寄鳥 |

寄鸛	寄雉	寄鶡	寄鷄	寄水鷄	寄雁
寄鶉	寄鴨	寄鴝	寄鷓	寄鴉	寄鶻
寄水鳥	寄鳩	寄鷓鴣	寄鴛鴦	寄鴨	寄鶻
寄鷓	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣
寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣	寄鷓鴣

寄裳	寄衣	寄紐	寄緒	寄帶
寄書	寄筆	寄繪	寄笛	寄琴
寄弓	寄箭	寄扇	寄蓑	寄笠
寄絲	寄錦	寄布	寄排	寄手
寄枝	寄木	寄四	寄注	寄車
寄舟	寄棹	寄楫	寄帆	寄碇
寄呂	寄綉	寄泛	寄代	寄簾
寄經	寄繩	寄滅	寄芥	寄釜
寄燈	寄火	寄鐘	寄貝	寄塵
寄源氏物語				

候のふとこ

懸下

寄草色

皆後種海にのちらゆらゆらと白きものもはませうあひしとてらん
 際者 念れとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 凡 寄草色にあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 萩為中節にあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 一 各其色にあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと

寄初草色

作在社 候やあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 初草色にあひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 ・あひあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと
 くおあひとあひあひとあひあひとあひあひとあひあひと

候のふとこ

懸下

あまのあまのこころをいかにかきとらふか
あまのあまのこころをいかにかきとらふか
あまのあまのこころをいかにかきとらふか

寄下草虫

影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか

寄茶虫

影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか

又あまのこころをいかにかきとらふか
又あまのこころをいかにかきとらふか
又あまのこころをいかにかきとらふか

寄首蒲虫

あまのあまのこころをいかにかきとらふか
あまのあまのこころをいかにかきとらふか
あまのあまのこころをいかにかきとらふか

寄瞿麦虫

影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか
影落るくら梅のこころをいかにかきとらふか

かゝるもこのとてなむしむのる。ひかり輝てらりもく
ねとてか所。又我志あゆりかそこと人よあつて家
かともあえし。 志あゆりとい我物か所 ころんかそこと女
かこころて人よあつてかこころか

寄萩魚

池を末考或は萩とかり人あし。むあかところいし
てころりて花まてかとも。又いふいふゆるりれきと
いれきゆるりのきとも。又かり人よあつてかこころり
かこころあえし。

寄萩魚

池を末考或は萩とかり人のまていし。又考とこと我あ
人のあつてとてれかよ。いふいふゆるりれきと
のきあつてかこころりてかこころり。人のいれ萩
凡かこの葉乃あつてれかこころり。

寄萩魚

勅千物。いれ萩のまていれ萩魚。あつてらりかこころりとも
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。

寄女師也魚

勅千物。いれ萩のまていれ萩魚。あつてらりかこころりとも
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。
いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。いれ萩のまていれ萩魚。

寄菊色

後がしつらうらん人の心も白菊のつらねいろとかなふれどん
菊とすんまよせても花よの菊の白さ・とよまのこころの
とかなむとつらうり又さういふのしつらふ物なれらん
人のしつらひらさふもせても清し・人の心のしつらひら
ていふは花よの心さういふも・かないさういふも
のちちうねとつらうりて例とかなわぬし

寄草色

後がしつらうりて花なれどこのしつらひ中もえ花なれ
さき草の草なれれど我中のしつらひもく・又冬くさなれ
ても又草とすしつらふもさういふ中らつとすしつらひも
いぬうりとも清し・冬くさしつらひを草よおけ其の草
くさなるとの冬なれよをともよむし

寄藤色

後がしつらうりて花なれどこのしつらひ中もえ花なれ
こもともはこも後さちこもはつら物なれらんのすも
花よふあひも・こも枕くり花なむとつらうり・又うりて
ういおなれがうりこものさひもさういふも清り

寄菅色

後がしつらうりて花なれどこのしつらひ中もえ花なれ
さき菅の菅なれれど我中のしつらひもく・又冬くさなれ
ても又菅とすしつらふもさういふ中らつとすしつらひも
いぬうりとも清し・冬くさしつらひを菅よおけ其の菅
くさなるとの冬なれよをともよむし

後がしつらうりて花なれどこのしつらひ中もえ花なれ

吾の心は人の心も清く

寄若菜

清後終 誰故かよとつくしむるれんくさ其の二花のうらみ
其のうらねの二花ゆきいしむるも。さうさ其の二花のうらみ
わらんも。さうさ其の下福のきあか。さうさ其のうらみ
いしむるも。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
と多し。其か其の二花ゆきまあり

寄葛菜

新拾今世。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
葛の大新。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
よ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
と多し。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ

寄萱菜

佐太社 旬家のありさうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
く。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
か。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ

寄海菜

海子。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
海菜の海。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
ら。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
か。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
か。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ
ぬ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ。さうさ其のうらみ

藻のたひに... 藻のたひに... 藻のたひに...

寄 沼 鏡 魚

沼鏡魚... 沼鏡魚... 沼鏡魚...

寄 海 松 魚

海松魚... 海松魚... 海松魚...

寄 柳 崎 魚

柳崎魚... 柳崎魚... 柳崎魚...

寄 秋 冬 魚

秋冬魚... 秋冬魚... 秋冬魚...

のまゝにしてしなすも落し

寄竹色

秋葉 とうとうのよ又久ふたもせめて一巻のたひぢいす一冊
くれ竹のうさうしきうも・まのくれ竹のおさう一冊あ
とも・くれ竹乃いよくよとめておさうとよ・くれ竹の一巻の
あもあねとも 一巻のあといねあね・其外たうさうけ
まか一巻びさかたうさうまんとよまあま・寄竹とい
ひて終りつるなるとしり

寄篠色

秋松 ひとつの葉方の巻紙をうらむとよまて公志うらむあ
篠もいよくさうさうかたせめて落し竹おれ・又あ方ては
うらふたのうらまよまてく・そのの上あとうら方し種まて
さう巻紙と秋のふさう方一あさの種よりあまてうらま
り落りつるといふなるとり まよさう方し種多くあま

・或はどのうらまの二巻よあねさうとら・一巻うらね
の落りうらまされおれとせりうらまともあま

寄木色

初物 せりうねさうしきい又夕日さゆ朝の雲人ねもさう
落り うらうられりせめあまとりあのおまあ地まらん
寄木色は松枝のうらま其外あまられとも落し一各其あ
まらうら

寄花色

金葉あまらり人のうらまねいよまのあまのあま
落しあまのうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
元ひのさううらまのうらまのうらまのうらまのうらま
又人のうらまのうらまのうらまのうらまのうらまのうらま
とらうらまのうらまのうらまのうらまのうらまのうらま

秋葉のうらま下

何れも此の世にありては
世の世にありては
世の世にありては
世の世にありては
世の世にありては

寄梅色

あや 梅の白く人の心うらやましく
して我神かれしごとく

寄友花色

友花の心をよき花の色
また花より見る友なごともあはし

寄卯花色

あはれ 友の心をよき花の色
卯の花の色もよし

寄江菜色

あはれ 友の心をよき花の色
江菜の色もよし

寄菘菜色

あはれ 友の心をよき花の色

寄楢色

耕うがひのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
なまのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
なまのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん

寄柏色

後後のいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん

寄桐色

佐太佐太のいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん

うさぎのいしをたたくらん

寄振色

白しろのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん

寄楸色

あまのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん

寄常盤木色

耕うがひのいしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん
いしをたたくらんあまのいしをたたくらん

耕うがひのいしをたたくらん

いづれもわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
いづれもわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。

寄松木魚

松林のまはりにわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
松林のまはりにわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。
又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。

寄宿木魚

いづれもわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
いづれもわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。
又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。

寄松木魚

いづれもわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
いづれもわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。
又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。

寄松木魚

いづれもわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
いづれもわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。
又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。

寄松木魚

いづれもわづらひぬをばてし。又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。
いづれもわづらひぬをばてし。松林のまはりにわづらひぬをばてし。
又うづらぬ。いづれもわづらひぬをばてし。

寄馬島

秋後 かなたのちの暮ねのさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
月 所一りのさるるのさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
寄馬島のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
もよむに各々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

寄馬島

秋後 我々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
寄馬島のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
もよむに各々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
て人のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

寄馬島

秋後 我々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

秋後 我々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
寄馬島のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
もよむに各々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
て人のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

寄馬島

秋後 我々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
寄馬島のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
もよむに各々のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ
て人のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

秋のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

秋のさるる月夜にうらむるを思ふ社はなれ

人志れどもあつてはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり

寄書

秋も又まよふてはなかり
我いり孫をかぞへてはなかり
かたぬきてはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり

寄時

かたぬきてはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり

寄時

かたぬきてはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり

寄書

かたぬきてはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり
まはるる米のよきとてはなかり
よと我人言ふはなかり

下はちも

下

寄鶴島

秋の風はさわやか。みづのうらやましさに。うらやましさに。
くちくちく。人々の心は。秋のうらやましさに。うらやましさに。
ふあふあ。秋の風は。さわやかに。くちくちく。うらやましさに。
くちくちく。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。
うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。

寄舊山

新秋の風はさわやか。みづのうらやましさに。うらやましさに。
くちくちく。人々の心は。秋のうらやましさに。うらやましさに。
ふあふあ。秋の風は。さわやかに。くちくちく。うらやましさに。
くちくちく。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。
うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。

寄山風

秋の風はさわやか。みづのうらやましさに。うらやましさに。
くちくちく。人々の心は。秋のうらやましさに。うらやましさに。
ふあふあ。秋の風は。さわやかに。くちくちく。うらやましさに。
くちくちく。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。
うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。うらやましさに。

秋の風はさわやか

寄鶴色

作
鶴をうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

寄鶴色

あやうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

寄麩色

敬
麩をうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

寄獣色

獣をうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

寄虎色

虎をうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

寄馬色

馬をうらうらと人の心のみを別す鳥の羽とて
鶴の心とてあなごころなをうらうらと
あいらとひなれをこの心も心をまうらうらと
よらうらと心の心もうらうらと
といそても鳥の心をうらうらと
かともうらうらと

毎毎日日 くらりくらり物もつらうと云ふは、
或人の心乃ちなるも、
れあり申経てりらに物もつらうも、
あやうせても、
やういふ人、
よふこころ

寄猪魚

朝千朝千いりねひらまを猪の床をれ、
寄猪魚寄猪魚 夫方るも、
こねねつしとも、
ひらりのとも、
こともいひ

寄鹿魚

猪言猪言 林のふりくらり、
鹿の書鹿の書 夫方るも、
我我いりねひらまを猪の床をれ、
こねねつしとも、
ひらりのとも、
こともいひ

寄猿魚

沈沈子子未考或ハ、
心心か、
多多く後

寄照射魚

寄照射魚

新改集 我心ちくくあうらむたうらうれをうらう人のうらむあやせ
照射ハさうらむの比うら人の鹿とくんとてあうらうらうら
よれとくうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あて射くこれ鹿のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
はそれいれ急もひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
みうらう鹿も我もくうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
の松とりしとらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

寄虫五

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

寄蛛五

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

寄蛙五

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

寄草五

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

・我々の世のこころをわづらひておぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば
あつたふのこころをわづらひておぼしめし給へば
てもおぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば

寄時魚

・我々の世のこころをわづらひておぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば
あつたふのこころをわづらひておぼしめし給へば
てもおぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば

寄茶

・我々の世のこころをわづらひておぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば
あつたふのこころをわづらひておぼしめし給へば
てもおぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば

・我々の世のこころをわづらひておぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば
あつたふのこころをわづらひておぼしめし給へば
てもおぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば

寄松虫

・我々の世のこころをわづらひておぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば
あつたふのこころをわづらひておぼしめし給へば
てもおぼしめし給へば
いかにいかに我人きりかへし給へば

寄鈴虫

寄商人色

うらなはしき。まへ。くちまうく。一板のちりり。一板のせう。乃
 空のあつ。一板。りり。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 りりのせう。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃

寄商人色

一板のちりり。一板のせう。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃

寄樵吏色

うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 うらなはしき。まへ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃
 まふもあつ。くちまうく。くちまうく。くちまうく。くちまうく。一板。乃

海防の事

一板

ちまきとつゆきとあね袖の白む。お月さまのこの俺の白む
 ・あひくころあかの白む。彼の白むむくみあひくころん
 ・おの猪のまをておふ。おのこのなうしてうさ。色こ
 びてあぐれつづるむ あぐれつづるむは人の。後まひうすは
くさるるむ。 くもあやとさふ神あつとも 破のむとい貝のむなといとて
海は後といれ貝のむ。

芥鏡魚

後松村のむらとみ。 一画氣くまうてあね候のおとうあふん
 心くらんは画氣くつらうつむとさぐなとせえて透へ一あふひ
 ひとまふぬ人の画氣とこひ。あさかく我画氣のやうれら
 とうづんまむひてしつるんこひ。色もくつ洞あつらふよ
 一なとさうふし。又人のんらつらり。らまも人かけ
 ゆらなといふくえの語話すりやきしげこひくもくある
 一其かまひくこい増やうそいあし又水くこ。せよ。

芥鏡魚

のうぐえと鳥のひのうぐえかきとふよせても後し

鳥 どのううあやまもあつらむ。ちんちんちんちん
 おうけんかこいあつらなして彼の候かた。むく一げあつら
 みるぬ。むく一げあつらうさう。むく一げあつらうさう 別名
はまが びかしてつづらら

芥兼魚

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 の約更なめれ

芥柳魚

譯 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

芥のむらとみ下

すてん

とり・文人もあつて・……のあつていふし
かたはのいふ・……のあつていふ
く……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

寄髪色

……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

寄髪色

……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

寄中結色

……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

寄枕色

……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ
……のあつていふ

てはよ・たひひのひまを笑・人よひひるればも其か・は
トひひ・中のおひも・うまわゆるひまをよこも・ちりま

寄緒糸

自割 終ぬらにてもさうれれらつた終のこもれてはうも
別の終の終ぬらなり 玉の終の終ぬら 又今どきなり 玉の終のこ
えそとととととと 玉の終の終ぬら 玉の終の終ぬら
又終の終よらせてもあしつたなしととと

寄号糸

九井のトま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま

おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま
おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま

寄書糸

おののま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま

終の終の終ぬら

終の終の終ぬら

Handwritten text on the left margin of the right page.

Main handwritten text on the right page, written in a cursive style.

寄破魚

寄字魚

Main handwritten text on the left page, including a section with the characters '海' and '水'.

寄鱈魚

Main handwritten text on the left page, including a section with the characters '新' and '魚'.

Handwritten text on the left margin of the left page.

Handwritten text on the left margin of the left page.

すし世...
とり...
...

青練色

青練色
新勅...
...

寄錦色

緑林
七百

人...
...

寄布色

...

新林...

寄布色...
...

...

...

寄採及色

耕...
...

...

...

寄舞魚

うらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさ
白川
うらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさ
も深きり。海かきしよ。海かきしよ。海かきしよ。海かきしよ。
かきしよ。うらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も

寄徳色

海舟のうらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさ
一。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も

寄縄色

新張有らぬ。海舟のうらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も

寄減盡色

海舟のうらなまらぬ。ちんぱんまの茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も
あはれいさ。又我國の茶と我土の茶の茶のまていさし。も

寄舞魚

寄徳色

寄縄色

寄減盡色

つよつよのこころも其か入れたのまじりていづかぐんまのこれ
さうくんとも・我考はつゝさうの鐘のこころ方み持たう
こづらんとも・つらまてう々のまもさるれつる今くはも
のこすとも・ちぢり人の神・ちうれすつゝあうのうまも
こころいりねほいとも・又しうりまのまも味のみまこ
とらんとも・又侍者の文はくまこころいともまも

寄貝魚

後千・弟とてさひそまてしうりせ貝むれさ魚の恨せま
かむれ貝のさうくんとも・つらまてう々のまもさるれつる今くはも
のこすとも・ちぢり人の神・ちうれすつゝあうのうまも
こころいりねほいとも・又しうりまのまも味のみまこ
とらんとも・又侍者の文はくまこころいともまも

寄壁魚

物さゆ・又貝と甲斐まかして・つひそあるまも・らふひの
かすつゝらりともて貝の海辺まもまも

新築いらいのねむらからまのまつりしうりの中は年月
あつねむらも枕もらりつゝらりとも・あつねのまもら
つらまてう々のまもさるれつる今くはも
のこすとも・ちぢり人の神・ちうれすつゝあうのうまも
こころいりねほいとも・又しうりまのまも味のみまこ
とらんとも・又侍者の文はくまこころいともまも

寄源氏物語魚

源氏物語まのまもまもまもまもまもまもまもまもまも
つよのまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
いあゝ・沖まも
千枝まもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

これにむらうのまへにむらうのまへに夕夜の上の夕夜の上の
 ゆりゆりふりて 保氏のまへに夕夜の上のまへに 保氏のまへに
 夕のゆりておるせし 保氏のゆりて 保氏のゆりて
 月 保氏のまへに夕夜の上のまへに 保氏のまへに
 これにむらうのまへに保氏のまへに保氏のまへに
 まいて保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 もあうの浦より保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 まよ持たうのまへに保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 まいて保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 むくり保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに
 のまへに保氏のまへに保氏のまへに保氏のまへに

漢乃下とて雑目録

何方	何在	言意	佳色	并	飲色	喜色
佳趣	朱編	未飽	晴天		花洛	
簷外	戶外	遠山	遠鴻		遠村	
遠樹	画客	行客	回昔		憶昔	
秋近	近枕	逐年	遐年		巡年	
送年	度年	積年	経年		多年	
契齡	争齡	延齡	両方		逐日	
連日	毎日	終日	映日		月前	年月
寄月	映月	曉更	曉天		到曉	
每朝	晚以	薄暮	連夜		逐夜	
每夜	更夜	暗夜	深夜		深更	

遠夜	幽栖	并幽居	幽徑	編素
用談	山中	閑山	宜山	群山
連峯	洞底	故溪	野外	野徑
寒野	野亭	野宿	海上	湖上
<small>系上</small>	橋上	屋上	松上	水上
海邊	湖邊	河邊	池邊	江邊
水路	連浪	高位	風前	雲端
雲間	雲外	天外	松間	杜間
竹間	竹裏	林以	叢端	石下
每家	誰家	竹亭	古砌	砌下
窓下	古屋	荒室	上隣	幽思
幽情	旧情	遠情	思無定	此一
遠近	貴賤	都鄙	憂喜	遊子

溪の下のこ 雑

山	関	邱	水邊	川	渡	橋
海	湖	山家	田家	古心	水口	古寺
釋教	社以	迷懷	懷旧	衰傷	眺を	祝

己上の歌後方初学和詩式すいりてとてうりて略之今
 毛くもはに季を新の歌子しとひらる契字のこく
 ひとまがて甚んととるに者し

何言

郭の何方 水鶴何方 鹿野何方 枳衣何方 鐘野何
 方

何方といふはくとも方角のこゝろあるはんこゝろあるはん
 らある物よりりあふあるはん或は。地ともわらぬ。地こ
 られさ。時をえらひて。時をくわれ麻。らひてはひもわ

漢の下のこ

えぬ・あまやうい・らうい・あまやうい・あまやうい
なま・あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい

朝何方

水鏡何方

鹿声何方

傍衣何方

撞声何方

何王集

何右

何花何在のい

あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい

三言志

花下言志 憶牛女言志 月并言志のい

言志の其物子對してあまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい

花下言志
後石言志
憶牛女言志
月并言志
表紙

あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい
あまのい・あまのい・あまのい・あまのい

後石言志

三

佳色

歡色喜色

梅有佳色 花有歡色 花有喜色の心い

佳色ハいろはいろは歡色喜色ハいろはいろはの心をいふも
子深ふハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
せの色ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
おけし

梅有佳色
花有歡色
花有喜色

佳趣

水樹多佳趣 禁中佳趣の心い

佳趣ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
の心ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
うあハいろは

水樹多佳趣
禁中佳趣

水樹多佳趣ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
の心ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは

末遍

花末遍ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは

末遍ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
の心ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは
一本ニ末遍ハいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろはいろは

末遍

三

いひのうらさき

或どくちうてきしあふたつたれいもあうくお葉のうらさき
ありやうてきあふたつたれいもあうくお葉のうらさき
いひあふたつたれいもあうくお葉のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき

花未遍
若葉集
朝の未遍
お葉未遍
お葉未遍

未飽花朝の未飽のうらさき

未飽のうらさき
いひあふたつたれいもあうくお葉のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき

うらさき・朝の未飽のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき
あふたつたれいもあうくお葉のうらさき

未飽
朝の未飽
一字抄

晴天採露 晴天採雨 晴天鶴のうらさき

晴天

晴天のうらさき

晴天採露
晴天採雨
晴天鶴
相玉

花洛

花洛月のうらさき

花洛月のうらさき

花洛月のうらさき

花のこやこよとてお叶し

花月
種葛七言

限あれはなすもあつらへらるるの枝のよのけさ

管外

管外梅のこよひ

管外おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

管外
おの

管外おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

戸外

戸外おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

戸外
おの

おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

戸外
おの

おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

戸外
おの

おのの字心ねの字心ねの字心ねの字心ねの字心ね

遠山

を山雲のこよひ
を山雲のこよひ
を山雲のこよひ
を山雲のこよひ

とどめんか或は霞芳雲かとよとらてておあられ
ゆとつひ又の霞芳よこめりなりともてねえ根より
月のいひいひうりよこののちのうらも
又鐘のをらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
とよむ子こよとてたれはひいさささささささささささ
ぬの白ひまねれとちりーとつひ又を山の都えたよあま
かたさぬとここのぬのまよ今とちりぬのれつとも清せ
とててとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
を山月一雪ちよといぬ歌よて二重と置う程ももくし
とど山棘るたよといぬ歌よて二重と置う程ももくし
ひげんお歌よよわてあつらへらるるの枝のよのけさ
けんお歌よよわてあつらへらるるの枝のよのけさ

しり伏見よりそりかたをあらしてあひあひよひのり
とよみ又その所のたよりをとりしらんもよりのあむ
やふいあゆみしせのちかむに伏見の置まてしるい
かりけいりあむい

きよ霞屋
きよど
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山

を海に渡る 月並を海にのこす

きよ山のふかき一海をのちるとかて海へ一或は二一
舟のきよの浮路とたより入り目のかのちて海よりあぐり
といひ...あぐりあぐり入り目のあぐりあぐりあぐりあぐり

遠村

きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山
きよ山

を村霞 ぎ村霞を村言を村烟をのれく

を村ハをの村・きよの村・きよの村の村かしりあり
又村といひしりてをのちをのちあてりてせりてあぐり

海に渡る

ハ

花笛客

新後

花笛人

新後

花笛客

新後

行客

てお叶し

新後
花笛客
行客
行客
行客
行客
行客
行客
行客

「このありふれた人の心と心のちりめんのちりめんの
木のりとは候ふ白久の橋が百人をされどしえ
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
知れぬ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの
まふ心持つて橋をちりめんとしつゝいふはひの

「夕日さして渡らるる東のこひ人表の月くまやとさうさ
「ひ人のちりめんとしつゝいふはひの
「橋のどしとさくやとひ人をしつゝいふはひの
「夕日さして渡らるる東のこひ人表の月くまやとさうさ
「ひ人のちりめんとしつゝいふはひの
「橋のどしとさくやとひ人をしつゝいふはひの
「夕日さして渡らるる東のこひ人表の月くまやとさうさ
「ひ人のちりめんとしつゝいふはひの
「橋のどしとさくやとひ人をしつゝいふはひの

問首

對花笛客 對橋回音 對月回音

さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの
さしつゝいふはひの

對花笛客

對橋回音

對月回音

對花笛客

憶音

善月憶音 對月憶音のこひ

善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ
善月憶音のこひ

妻のこひ

秋近

螢火秋近扇風秋近松風秋近のこころ

秋近のつらさも夏の歌く或ハ螢火秋近と付らふい・やうく秋ら
うく秋やう・母雲の歌うもく秋らうといひ・秋とやうにまもい
ましく秋とやうりしあふらんとも・秋雲のうらみをまやそ
うりもあふらんとも
これいと秋雲のうらみをまよふらんとも
りしりもあふらんとも
扇風―ハ・まよふらん・はあふらんの内へ涼―さハいとやも秋や
悪いてつらふらんとも・又いとやもあふらんの内へ涼の涼
れとも
これと書きたるらんといふ
吹くせまよふ秋やうねとあ
らん扇風―はまよふらんとも
秋風―まよふらん・松風の涼
の内へ涼や秋らうらんとも・まよふらんの内へ涼―さハいとや
ふ秋や宿らんとも・ことまよふらんも松吹風の涼さハいとや
もわらうや秋らうらんとも・まよふらんともあふらん―

螢火秋近

扇風秋近

松風秋近

近枕

秋近のつらさも夏の歌く或ハ螢火秋近と付らふい・やうく秋ら
うく秋やう・母雲の歌うもく秋らうといひ・秋とやうにまもい
ましく秋とやうりしあふらんとも・秋雲のうらみをまやそ
うりもあふらんとも
これいと秋雲のうらみをまよふらんとも
りしりもあふらんとも
扇風―ハ・まよふらん・はあふらんの内へ涼―さハいとやも秋や
悪いてつらふらんとも・又いとやもあふらんの内へ涼の涼
れとも
これと書きたるらんといふ
吹くせまよふ秋やうねとあ
らん扇風―はまよふらんとも
秋風―まよふらん・松風の涼
の内へ涼や秋らうらんとも・まよふらんの内へ涼―さハいとや
ふ秋や宿らんとも・ことまよふらんも松吹風の涼さハいとや
もわらうや秋らうらんとも・まよふらんともあふらん―

近心の秋の青かきハ秋吹風はあふらんとも・秋とやうにまもい
ましく秋とやうりしあふらんとも・秋雲のうらみをまよふらんとも
りしりもあふらんとも
これいと秋雲のうらみをまよふらんとも
扇風―ハ・まよふらん・はあふらんの内へ涼―さハいとやも秋や
悪いてつらふらんとも・又いとやもあふらんの内へ涼の涼
れとも
これと書きたるらんといふ
吹くせまよふ秋やうねとあ
らん扇風―はまよふらんとも
秋風―まよふらん・松風の涼
の内へ涼や秋らうらんとも・まよふらんの内へ涼―さハいとや
ふ秋や宿らんとも・ことまよふらんも松吹風の涼さハいとや
もわらうや秋らうらんとも・まよふらんともあふらん―

秋のつらさも夏の歌く

符子明く我々の枕友さびつたしりかんとせ

萩音近枕

げつこいさし地と枕のまじり来る萩のこころ

晉近枕

秋をこ枕子近き蟹つらねあてもあられとハレ

鶴巻近枕

海と夜の暮る枕の松風と鐘まうこつた時ん

逐年

逐年松盛逐季花盛のこころ

年どの心逐年松盛毎季うらぐも盛んすたけ

逐年松盛

いせともさぬはほほほほわ有るこころハじあう我ら

逐季花盛

老ぬれなごころのまじりてのこころむらりハ

暇年

竹松暇年松松暇年のこころ

うらぐれこころ年くこころ心千世乃代すたけ

竹松暇年

あはれぬらいつくやれ竹のうらぐれをく修て

松松暇年

今年より後さつた松の本の心ぬれぬるこころ

巡年

巡年友竹巡年友松巡年友

巡年ハこれハ年久しきんをたけ

松巡年友

望ありて位やうの心なれは世のまらさせん

竹巡年友

うらぐれらるる竹乃ハ毎まのれらるる世ハ

松巡年友

往代より久しきれを動かさるる松の柱とせけん

送年

新世送年 田家送年の歌

枚年とくるんこころハ新世送年ハ善の世ハ枚年めらハ
かれぬらんとしハ又善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ
おほてハ枚年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ
るハハ家送年とりハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ
送年ハ枚年ハ初一時ハ枚年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ
あつたはれハ枚年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ
けハ枚年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ

送年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ

送年の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ善の世ハ

田家送年ハウリ地ちの房小住なれて善枝の志川うきこ
もなれぬさよー又長島の里じわぶの志川田家子淡なれ
一名はなれ善枝の田の志川常氣かーとよそ長島の里
又ハシカゲの里子年送るんもねえ

新送年 初送年
「くれとよの乃常木の心のよまこ善枝の香平あん
の家送年 志出て本本おじく号のやうとよとたりふた
田家送年 呼名年 くての志川うきやま年とて田家人ともねえ
度年 松度年香 松度年花のれ

梅度年 松度年香 梅度年花のれ
「香あそー雪のゆより雪初て香のゆ子白ゆ松
松度年花 松玉 じよとよ冬木の松ゆり川ふ白ゆりさ善のまひ

積年 松積年 并趨積年

年久ーさく松積年子ハ長雪子ま世ことりとさひ
しとひハ又ハ美とせぬんせう積もなれてこころも
のたこころといふ又さう松つともさく 并趨積年ハ 年久ー
年ありぬ松枝のこころおし せつとよ冬木の松ゆり川ふ白ゆりさ善のまひ

松積年 并趨積年
「年ありて新さひりぬ松ゆり川ふ白ゆりさ善のまひ
日趨積年 思われつとくとよま年とて今かーと

積年 松積年
「積年といふおれ 積年松年まらさ年も久ーさうり
松積年 松玉 松積年 思われつとくとよま年とて今かーと

美年松 松玉松

いひの... 業

野柔必終

根起終友

両方

毎日のくくもはるの老ぬる人のうらみ...
とらふたふらふ松うし毛先中世もろく齡すうちとあつた
両方す郭公 鹿音は方あ方息

あ方、或は、枕より寝より...
こがさなふておてしせりあ方あふふふ人あつりあは
くれもあつてこれともしふんたをわつし

あ方す郭公

鹿音は方

あ方す郭公

逐日

逐日看花 逐日草花 逐日雪深 逐日浮魚のこくひ

毎日のくくくくくく 逐日看花は教目むあくく 毎日くくくくくく
お叶 逐日草花は二つよりあつたまきりあつたより今日まえ

連日

連日苗代連日雪連日舊村のこくひ

夜目くくくくくく 或はくくくくくく 山か山か山か山か山か山か
のなつりくくくくくく 暮の目散くくくく 竹田のなつり
ろくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

夜のちんこを推

一八十五

やういふしつと本もなつらういふしつとあつ・ふのういふあつの
あつといちそひてあつぬ日たういふしつと・意持よふいふしつ
おれといふしつとあつといふしつと・うり衣目とていふしつとあつ
ゆきよといちたつと・日教あつあつといふしつとあつといふしつと
くといふしつとあつといふしつと

連日直代

連日電

連日電

連日電

毎日

毎日測涼のくといふしつと

毎日測涼
水王

このふふあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
あつといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ

終日

終日電報 終日向泉 終日對策のくといふしつと

終日のふふあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
日教あつといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
さといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ

終日電報

終日向泉

終日對策

あつといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
あつといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
あつといふしつとあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ

映日

映日映日 映日映日のくといふしつと

日教のあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
日教のあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
日教のあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ
日教のあつといふしつとあつたけあつといふしつとあつたけ

ふいふとふいふとふいふと花あはれありたるやとふいふと
あはれとふいふとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと

映霞映日
野兼也
の紫映日
柏王

夕つくひさきや雲の霧霞をれもつらぬ妻のつらくれ
月影うつりておぼろきとふいふと

月前 并 月下

月前ハ月まきしつらぬる眼帯のふいふと月影うつりて
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと

寄月

寄月ハ眼帯の月とも淡又とあはれる花の月入て後の月
つれもてもり月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと

映力

月映花を映月其月映泉 野秀映月のふいふと

あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと

映花
映泉
映日
映月

あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと
あはれとふいふと月影うつりておぼろきとふいふと

月のあはれ

野影映月 一り葉こきとのしとていせの秋花の影を映す

暁交 キヤウカウ 四季諸歌子抄

くわゆるいとし文の五文のふまをいふいふいふいふ
とよめお祈・有明の月・きの祢・山さくし ふしぎ・志のあ
祈さめあて暁交よりあふ四季諸歌のいふいふいふいふ

暁天 キヤウテン 暁天落心 暁天落心 暁天落心

天の字んれしとあふいさのんさうりて天の字んれし
ふしぎしとふしぎしとふしぎの抄也よしとふしぎれいさの
字んれいさのいさしとふしぎ

暁天落心 法抄子歌のいさしとあふりて後考
暁天落心 花の色ふあふいされなると別れあふり一の有明の夢
暁天落心 ころし風吹くして流るよの光さけりつりるさく書

到暁 イタルイロキ 抄衣到暁 佛名到暁

到ハタより暁交しと秋花の心く・あふいさうりて・有明の
て鳥のさふさくかきしひつれいさうりいさうりいさうり
あての字んれしとふしぎしとふしぎのいさしとふしぎ

抄衣到暁 有明のいさうりいさうりいさうりいさうり
佛名到暁 有明のいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝 イニチ 毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうり

あふいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
つらとあふいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり
毎朝のいさうりいさうりいさうりいさうりいさうり

秋の影を映す

四季諸歌

深夜の静けさ

とさう物さうさうさうある

暗夜揚
白門七百
暗夜厚
新後於

折の花音よの語の白いもやこの夜さうさうはして
花いそぎさういもほろ有明の月とさうさうさうさう

深夜

深夜まぬ 深夜丁 深夜月 深夜おのこひ

深夜大静夜は後どりしー 小夜ふりてさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

深夜
深夜
深夜

折花有明の光さうさうさうさうさうさうさうさう
折花さうさうさうさうの光さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうの光さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうの光さうさうさうさうさう

深文

深文子日一 深文さう

途夜

七夕途夜のこひ

七夕途夜
七夕途夜

七夕の七月七日の夜とほむさうさう

出栖
出栖

出栖五月 出栖書ぬ 出栖杖来 出栖因鹿 林下出栖

出栖さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

出栖
出栖

出栖五月 出栖書ぬ 出栖杖来 出栖因鹿 林下出栖

出栖

幽栖秋末

月
未名
柏下
相王

「あはれ」の所らうあくの言作も人かうほの好のつた
「うまやまくれまは」の梓意の多もさうけれん
「たつらうおま」といふ名所とや本のおぼすれあは

幽栖のこころ

うしろなるらうし・或若さうりらうしひい・流をさの
三のうまひら・若さるある山陰・若さうらひのけれをこ

幽栖
修於

編素

編素身月のこころ

編ハ傍素ハ俗人の心く信俗打よりらうして月とらう編
素の心ハ昔深の神聖のこころをさうりてりせらう
「や」とらう月らうらうと若若の彼もむのこころふも

用談

用談 加邊用談のこころ

宋漢と云はるふと云ふ月おさうてぬくその心さうてん
さ歌くうのてむらう〜九家講子ハくどくの歌向あ
〜一或はこのうらう〜さり書と友子おさう〜ひ或ハ
のくれ入〜さ深のこころ〜ひさうらう〜ひは
とふ心書の書は〜さう〜ひ又人志れとんま〜か
とも〜しあ〜さう〜ひ〜さう〜ひ其か〜さ
も宋漢と云はるふと云ふ月おさうてぬくその心さうてん

用談
新
柏玉
川
聖

「これ竹のよ〜乃〜さう〜ひ〜い〜ぬ〜も〜や〜れ〜ぬ〜さ〜ひ〜ら〜れ〜ぬ〜
「あ〜と〜い〜ひ〜り〜て〜ゆ〜ち〜ハ〜好〜失〜の〜歌〜也〜ぬ〜も〜ち〜あ〜の〜こ〜ころ〜し〜
「あ〜と〜ら〜な〜ふ〜と〜ん〜子〜好〜失〜の〜小〜説〜又〜人〜も〜志〜す〜ら〜り〜ぬ〜り〜

山中

山中 山中 山中

いづれ

〇三

山中とあるは山よりと云ふ事又さうして山よりと云ふ事なれば
ふもあれと山中と云はれは山よりと云ふ事おぼやかりと云ふ事

山字

山字

山字

山字

山字

山字のいふ事

山字のいふ事一山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
く或うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
いふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事

空山

空山一山字のいふ事

空山ハ山字のいふ事なりと云ふ事

山字

山字

山字

山字

山字のいふ事

山字のいふ事一山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
く或うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
いふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
うと云ふ事なれば山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事
ぬれは山字のいふ事は山字のいふ事なりと云ふ事

山字のいふ事

〇三

ちよとのやまといふは海をよといひてかたしりかたし

屋上時雨 かきほ 冬のおはれ時雨の板屋大川やうと云ふはひびく時雨を

屋上雪友 かきほ 板屋の雪の柱のうらむを打かたらけと云ふは

松上 まつの上 松上雪のこゝろ

松上 まつの上 松上雪といふも松のこゝろのりいさかたなり花をそふ叶

新松 まつ 老いものこゝろいやせんといふは雪といふは松の心を

馬工 うまのかし 馬工の都る馬工雪のこゝろ

馬工 うまのかし 馬工のこゝろは・約なりて のこゝろは かくとそふ叶

馬工 うまのかし いふは雪のこゝろは・約なりて のこゝろは かくとそふ叶

海辺 湖辺 河辺 澁辺 水辺 池辺 江辺

孤鴻

辺の字はつれも虚字へ海上湖上などよなり一及後考

孤鴻霞 孤鴻残月 孤鴻雪のこゝろ

中よつをれていふ川ある流と或は浦の流を流と云ふは

と流り名はハありら流といも流と云ふはゆひの流など

あり其かひと川流なくハらくも流すは川流と云ふ

とハ孤鴻子あり流又ハ十流などともふ叶

孤鴻霞

孤鴻残月

孤鴻雪

右渡

右渡 右渡考 右渡考のこゝろ

右の字はつれも虚字へ海上湖上などよなり一及後考

又名はの後よ舟やうらうらとありありつらむと云ふ

舟とてかかれぬわたりみ舟とよまんとていふ

右後表 附無子そ 鳴や岐らこことておまろり海を渡るの川の川

右後表 おれ 夕きりよとていふいぬ角田の我友舟もありやめや

右地 右地高浦 右地高浦のいふい

右の字んれい比とておけいしはの地なとあつた

つくれもあれ言地まいく名地の地ちういつつとておれ

右地高浦 附五 刻々あふあやりいひおと物て障ある地の水た濁る

右地高浦 松五 柳も折をくれと地とつた地の地子けいさあくとれ

水路 スイロ 水路彩雲のいふい

水路八舟のりつふふとよいふ名地の川も舟とよせてあり

水路彩雲 玉吟 水路彩雲のいふい

連浪 ワラハルナミ

を帆連浪 渾舟連浪 渾火連浪のいふい

いづくも浪よつたりてもろくおまろり海を渡るの川の川

いづくも浪よつたりてもろくおまろり海を渡るの川の川

仲子帆りてお舟の物多くもろくおまろり海を渡るの川の川

あり渾舟ハつり舟・商人お舟なとあり渾火ハ・波子

を帆連浪 おれ ありれおもえ波うれ漕おちあくの舟の浪もよとて

渾舟連浪 附五 波のよと釣とら船と友舟のどのうとてよとておれ

渾火連浪 附五 志のうと海士のうと船打つとてよとておれ

右後表 おれ 右後表のいふい

右の字んれい比とておけいしはの地なとあつた

美のよとていふい

庭樹を依は座の程に落しつゝもあつちふふかへてこれるも
あつち落しつゝもあつちふふかへてこれるも

庭樹 きげん 庭樹 依

朝子おちいぬ子のあむ抱ええちやのみのまはぬか
凡か一凡前鹿 凡前掛衣のこころ

凡前ハクセの吹心まておけふぬぬのころらりお前寄凡
父へ吹風生して又あ方ぬぬのころらりお前寄凡
寄月の心子あけ

寄月 凡か一 凡前 寄月

凡か一凡前鹿 凡前掛衣のこころ
寄月の心子あけ
重端座一のこころ

雲の字のりし雲とよめおけし

雲間

雲間 雲の字のりし雲とよめおけし

間の字虚字をよりし諸抄おけりしし雲の字のりし雲の間

雲外 雲外 雲外

雲外 間の字虚字をよりし諸抄おけりしし雲の字のりし雲の間

天外

外の字のりしし雲とよめおけし
天外 間の字虚字をよりし諸抄おけりしし雲の字のりし雲の間

和の字は...
二和...
...

松間

松間

松尾の花ハ松の木...
...

松間
松尾
松後

杜間

杜間

杜間の字も...
...

杜間

杜間
杜間

竹間

竹間
竹間

竹間
竹間

竹間

竹間
竹間
竹間

竹間

竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢
竹叢

川竹のたけとふとのたけうまひをよとふのたけありあり
たけとけ我れたけとふのたけひつ竹とありとふたれの花
秋風のたけまもたけうと竹のたけたけふたけのたけあり

林
林
林
林
林
林
林
林
林
林

たけの字んたけ林とありたけ又林も林といふ本の花
たけとふたけもたけ又たけの林もふたけ
たけのたけたけたけのたけおたけのたけたけたけたけ

叢
叢
叢
叢
叢
叢
叢
叢
叢
叢

叢の字んたけとふたけのたけおたけ
叢とふたけのたけおたけのたけのたけのたけ

中の子んたけとふたけとたけと叢中虫のたけとふたけ
らふたけとふたけのたけ

叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫
叢中虫

たけとふたけのたけとふたけのたけとふたけのたけ
たけとふたけのたけとふたけのたけとふたけのたけ

毎家も家々もふたけとふたけとふたけとふたけとふたけ
たけとふたけのたけとふたけのたけとふたけのたけ

毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春
毎家有春

たけとふたけのたけとふたけのたけとふたけのたけ
たけとふたけのたけとふたけのたけとふたけのたけ

誰家

翠柳誰家 遠花誰家 如衣誰家 樗誰家のこころいし

ふたつよりまやこころいし人のまじやと世とつめりぬのこころいし
垣根朝なと暮もた叶或ハハゆきぬまじやれこころいし
ぐわとこころいしゆめりぬまじやとこころいしやとこころいしハハ
世と暮ぬともこころいしむかしてよてお叶

翠柳誰家

打たふらまのやとらやこれならんまの柳ささる

後状

のせなう惜三様のおいれこれ我やとのむとら

中取家

たふらとよめゆめゆめあまそよあまそよゆめ

樗誰家

あふらあやとらゆめゆめあまそよあまそよゆめ

竹亭

竹亭圃堂 竹亭夏菜のこころいし

竹亭のこころいし竹・竹の下り竹・まづら竹・竹のまじ
こころいし竹・なごころいしお叶

竹亭圃堂

朝近さゆくの竹のまじお叶ゆめゆめあまそよゆめ

竹亭夏菜

まづら竹・おと朝近さ竹のまじふらせうゆめ

古柳

古柳樹古柳葉菜古柳葉のこころいし

古こころいし柳こころいしともふらこころいしお叶
もた叶古の字のこころいしゆりこころいしお叶
或ハハゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ
古こころいし柳こころいしこころいしゆめゆめゆめ

古柳樹

かの中れく朝なゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

古柳葉菜

つとてお叶朝なゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

古柳葉

こころいしゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

柳下

柳下葉のこころいし

下の字の柳こころいし

柳下秋
考

「さうさうかあ〜秋の暮の秋〜」

窓下

窓下の〜

意下

「おれ〜おれ〜おれ〜」

古屋

荒室 荒屋 古宅

「おれ〜おれ〜おれ〜」

古屋

荒室
古宅
古屋

「おれ〜おれ〜おれ〜」

上隣

春上隣の〜

「おれ〜おれ〜おれ〜」

幽思

幽思 幽思 不寐の〜

「おれ〜おれ〜おれ〜」

夜の〜

〇〇〇

中後交後

日 都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後

都鄙

都鄙交後 都鄙交後 都鄙交後



